

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報  
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一  
京都市中京区木屋町通三条上ル  
電話 (〇七五) 二二二二・一八一八  
弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両足で健全な国体を支える国家」を求めます。

## 《風俗店街を普通の街並に挑戦》

10年前、生まれ育った近隣西木屋町が風俗店街になっていくことに気が付きました。どうすれば普通の街に？普通の人たちが溢れるように通過しては？それから挑戦が始まりました。  
韓国料理店であったはずがいつの間にか風俗店になっていった上下100坪の店舗を交渉、二階の50坪に縮小、一階を二分の一に分割、一つは私が常連の「大詔閣」と交渉、入店。また熊本PARCO開店時、店長にご馳走になった馬の焼肉を思い出し、出店希望を募ると小田嶋さんが手を挙げ、「馬野郎」を開店しました。  
それから9年、「大詔閣」も「馬野郎」も大繁盛店になり、西木屋町は若者が往来を頻繁に闊歩するようになり、気が付くと風俗店は瞬く間に消え去り、普通の街並みになってきていました。  
お陰様で私たちNPOは10年の歳月をかけて、一つの達成感を享受できました。

## 京都国立近代美術館

### 《モダンクラフトクローニクル》

7月2日～8月22日

### 京都国立近代美術館コレクションより

1963年に開館した京都国立近代美術館は活動の柱の一つに工芸を置いており、国内有数の工芸コレクションを形成してきました。加えて、当館は「現代国際陶芸展」、「現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本」、「今日の造形(織)—ヨーロッパと日本」、「現代ガラスの美—ヨーロッパと日本」など、折に触れて日本との比較の中で海外の工芸表現を紹介し、日本の美術・工芸界に大きな刺激を与えてきました。

本展では、当館の工芸コレクションを用いて、これまでの当館の展覧会活動の一端を振り返るとともに、近代工芸の展開をご紹介します。

## 《京都のことば》

常葉臺住職 今小路覚真

京都の通り名です。

「柳馬場」市内のほぼ中央を南北に通っています。読み方は「やなぎのばんば」です。「やなぎのばんば」ではありません。  
東京の「高田馬場」は「たかだのばんば」です。  
小学生の担任の女先生の言葉を今でも鮮明に憶えています。

「ばばはうんこのことやから、人の名前るときは、ばばさんといわず、ばんばさんというんですよ」  
歌手の「ばんばひろふみ」も、関東なら「ばばひろふみ」だったでしょう。  
地名でも人名でも京ことばには、かすかな恥らいが隠れているのです。

## 宗教法人花鳥寺 土口哲光住職の説法

### 《一人居て賑やか、大勢居て静か》

小学校の同期の彼は、企業を定年退職後、もっぱらボランティア活動に尽力した。その一環に一人住まいの人に声をかけ、月に一回「食事会」を開く。「孤独感にさいなむ人、一緒に歩んでくれる人待つ者」は、その呼びかけを受け、参加者はうなぎ登りに増えた。現代社会は「自分さえよければいい」という極めて個人主義、利己的な風情が増えている。他人の悲しみ、苦しみを共有し、寄り添う彼の利他のあつたかい心に癒された。八十一歳の死は惜しまれ通夜、告別式には時節柄にも拘わらず、今生のお別れに人々の列が続いた。いつも大勢の中では、静かにニコニコしての和顔を与え、一人にいる時は、「同行一人、仏と一緒にですから」と賑やかに輝くという晩節であった。

## 季節の家庭料理

田村真紀

### 《七月 鶏肉と胡瓜と卵の中華風炒め》

《作り方・四人分》

鶏もも肉二百グラム・胡瓜三本・卵四個  
☆塩小匙半・紹興酒大匙一・片栗粉大匙一  
★紹興酒大匙二・塩少々・サラダ油大匙三・鶏ガラスープ一カップ・塩小匙二・紹興酒大匙二・胡椒少々・水溶性片栗粉(片栗粉、水各大匙二)  
鶏肉を一口大のそぎ切りにして☆を揉みこむ。  
胡瓜は縦半分切りにして五ミリ幅の斜め切りにする。  
ボウルに卵を割り入れ★を加える。フライパンに油を熱し、溶いた卵をふんわり炒めて一旦取り出す。フライパンに油を足し鶏肉を炒め胡瓜を加え、しっかりと火を通す。鶏ガラスープを加えて煮立てたら塩、紹興酒、胡椒で味を調える。炒めた卵を戻し入れ、水溶性片栗粉を加えとろみをつける。

## つれづれの記

山崎辰巳

### 《自律し、自立する時代》

開催か、再延期か？憶測を呼び、世論が左右に揺れる中、東京五輪の代表選手達はさぞかし不安な日々を過ごしたと想像される。近年、アスリート達の活躍が人々の感動を誘い、マスコミを賑わし、明るい話題を提供する機会が多い。特に災害地の人や苦境にあって人達から「勇気を貰った」、「元気づけられた」と拍手が送られ、アスリート達も「もつ」と感動や勇気を与えたい、「と誇らしげに語り、貫つたりできるものだろうか？」  
人々の心が複雑に揺れ動く時代。大切なことは、自律し、自立することである。大切なことは、元氣や勇気は自らつくり出すものであり、感動も押し寄せや受け売りでなく、内なる感性や想像力が源泉であり、残念ながら今や他人だよりが通用する時代は終わった。